

全国中学校バスケットボール大会派遣審判報告

1. 報告者: 吉田 一貴 (北相)
2. 大会名: 令和元年度 全国中学校総合体育大会 第49回全国中学校バスケットボール大会
3. 大会期間: 令和元年8月22日(木) ~25日(日)
4. 会場: 和歌山 和歌山ビッグウェーブ、和歌山ビッグホエール、和歌山県立体育館
5. 大会レベル: 各ブロックで選ばれた男女各24チーム、計48チーム
6. 審判動向: 8月22日(木): 研修会、審判会議
8月23日(金): 大会1日目(予選リーグ)
8月24日(土): 大会2日目(決勝トーナメント1・2回戦)
8月25日(日): 大会3日目(準決勝・決勝)

7. 報告:

【審判研修会】 研修会テーマ「処置ミスゼロの3PO メカニクスの実践」

～ベーシックの確認と徹底、情報共有の重要性に着目して～

研修1 (1) 研修内容、研修テーマ設定の意図 (2) グループディスカッション(映像分析)

講師: 福岡 敏徳氏(本部)

(1) テーマ設定の意図と背景

- 研修会は「共創」→答えは一つではない。
- よくも悪くも、今、日本のバスケットは注目度が上がっている。
- この大会にも「プロ」や「プロ予備軍」がいる。
- 試合後の報告とプレゲームカンファレンス(PGC)の重要性
→良い準備が良いゲーム運営につながる。

(2) グループディスカッション

以下の映像分析ポイントをもとに、グループディスカッションを行った。

- 3PO Mechanics Basic
- 処置ミスゼロに向けての3PO(クルーワーク、TOとの連携)
- その他(プレゼンテーション、ゲームコントロール、ガイドライン、インテグリティ)

研修2 3PO Mechanics basic とプレーコーリングガイドライン

講師: 小島 慶子氏(本部) / 尾形 美樹氏(本部)

3PO Mechanics basic

- 良いゲーム運営に欠かせないことは? → ①クルーワーク ②ベーシックの徹底
- 「処置ミスゼロ」で大会を終えるには? → 全ての基本である3POのメカを意識、徹底
- ローテーションをするときの意識
- 今大会でチャレンジすべきこと
→ ① クロスコールをしない ② Point of Contact (POC) にこだわる ③ ポジションアジャスト

プレーコーリングガイドライン

- Marginal Contact …RSBQ に影響を及ぼさないコンタクト。
- マージナル、イリーガル、ノーファウルの違いを、ゲームを通して理解し、示す。
- POC • Referee the Defense
- テクニカルファウル（TF）を宣告する際に意識すること
→ ①Ball Status ②Fit ③Effective ④Defendable

研修3 処置ミスゼロにつながるIOTとTOとの連携

講師：宇田津 浩史氏（本部）／橋本 恵一氏（本部）

処置ミスゼロにつながるIOT

- ゲーム中に起こるトラブル
- 処置ミスに繋がらない予防（CARE）と解決策（CURE）
CARE→気づく、声を出す（周知）、確認
CURE→ルール、Mechanics、PGC
- 今大会では「ショットクロック」と「フリースローシューター」を重点的に。

処置ミスゼロにつながるテーブルオフィシャルズ（TO）との連携

- TOの生徒も一生懸命準備している。互いに協力することが大前提。
- コミュニケーションをとることが、安心感への第一歩。
- 機材を把握する（ブザー音、連動、インナークロック）
- Eye contact
スコアラー → アイコンタクトをしてからコールを行う。
タイマー、ショットクロック → 正しく操作できているときにOKを出すと自信になる。
ブザー → TOが鳴らしてから笛を吹く。TOを信頼する。
※交代やタイムアウトがあることを「知っている」ことが大切。

研修4 インテグリティと審判

講師：宇田川 貴生氏（本部）

- インテグリティ＝人間力
- CLEAN Basketball / CLEAN the Game
→人間力、指導力、組織力を高める。
- インテグリティ精神をガイドラインに反映
→ルール変更ではなく、適用範囲を拡大し明確化。Respect for the gameの精神。

【担当ゲーム】

8月23日（金） 男子予選リーグ

新潟市立新潟柳都中学校（新潟） 対 札幌市立厚別北中学校（北海道）

CC：大下 俊之氏（島根） U1：吉田 一貴 U2：山本 義幸氏（和歌山）

<ミーティング内容>

- アウトオブバウンズ（OOB）の訂正など、クルーで協力してゲームを進めることができた。
- ショットクロック成立 or ファウルの処置をクルーで協力すべきだった。

8月23日（金） 男子予選リーグ

浜松開誠館中学校（静岡） 対 広島市立古田中学校（広島）

CC：若山 輝紀氏（徳島） U1：吉田 一貴 U2：坂本 修一氏（和歌山）

<ミーティング内容>

- ・ クルーでアイコンタクトを意識しながらゲームを進めることができた。
- ・ ビッグインパクトのプレーで、セカンダリーであったが力強く笛を入れることができた。
- ・ 両ベンチにも気を配り、コミュニケーションを取りながら行えた。

8月24日（土） 女子決勝トーナメント1回戦

松山市立拓南中学校（愛媛） 対 川島学園れいめい中学校（鹿児島）

CC：比嘉 涼太氏（沖縄） U1：松本 彩織氏（岩手） U2：吉田 一貴

主任：御手洗 亮氏（大分）

<ミーティング内容>

- ・ 全体的にクルーワークの良さが出ていて、スムーズに試合が行われていた。
- ・ それぞれがプライマリーの意識を持って取り組んでいた。W コールがあっても、プライマリーレフリーがしっかりレポートしていた。
- ・ ポジションアジャストをしようと細かい動きがあってよかった。
- ・ トラブルによりゲームを止めた後の、リスタートの位置やショットクロックを、クルーとしてより丁寧にできたらよかった。

8. 大会を通して

この度は、全国中学校バスケットボール大会に派遣していただきありがとうございました。

研修会や大会を通じて、「クルーワーク」の大切さを改めて強く感じました。本大会の研修テーマでもあった“処置ミスゼロ”のためには、クルーでベーシックを徹底し、プライマリーをしっかり守ることが必要不可欠であると思いました。PGC やオンザコートで情報を共有することによって、スムーズな試合進行につながることもゲームを通して感じることができました。また、今大会では TO ミーティングを試合前に行い“処置ミスゼロ”で試合を運営するために TO との連携をうまくすることが大切であることも再確認することができました。今大会感じたことを日頃から意識して徹底することの積み重ねが、レフリーとしての力量アップにつながると思います。割当をいただいた試合でプレーヤー・ベンチ・観客など、関わる全てのバスケットファミリーにとって良いゲームになるようなレフリーを目指し今後も日々精進していきたいです。

最後になりますが、大会中お世話になりました和歌山県の大会役員・審判員の皆様、ご指導いただきました本部・指名審判員の皆様、並びに派遣審判員の皆様、大会中たくさんのお心遣いをいただき本当にありがとうございました。そして、派遣していただきました神奈川県協会・県審判グループの皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。